

【目的】 分子学的発癌機序に基づく胃癌のタイプは4つに分類されることが最近わかってきた。本研究は、胃癌の発癌タイプ別の各遺伝子群とその特性および予後を検討することで、今後胃癌のタイプ別治療への発展に役立てることを目的とした。

【方法】 103例の胃癌の臨床組織を用いて、Epstein-Barr Virus 陽性胃癌、マイクロサテライト不安定性胃癌、ゲノム安定性胃癌、染色体不安定性胃癌を分類した。4つのタイプに分類したのち、各種タイプ別の特性と予後を検討した。

【結果】 病理学的および免疫組織学的手法を用いて4つのタイプ別に分類可能であった。Epstein-Barr Virus 陽性胃癌は、103例中9例 (8.7%)、マイクロサテライト不安定性胃癌は103例中11例 (10.7%)、ゲノム安定性胃癌は、103例中23例 (22.3%) であった。それ以外の60例 (58.3%) を染色体不安定性胃癌とした。マイクロサテライト不安定性胃癌は、高齢者に多く、ゲノム安定性胃癌は女性、Epstein-Barr Virus 陽性および染色体不安定性胃癌は男性に多く認められた。さらに、染色体不安定性胃癌では、65.0%が p53 蛋白異常であった。各タイプ別の予後は Epstein-Barr Virus 陽性胃癌>マイクロサテライト不安定性胃癌>染色体不安定性胃癌>ゲノム安定性胃癌の順であった。

タイプ別胃癌の予後

